広報あいかわ
発行所
秋田県合川町役場
責任者（広報係）松橋新一
（総務課電話4番・14番）
〔発行部数 2,600〕

消防大会当町で開催

7・5 中学校体育館

秋田県消防協会大館北秋田支部（支部長、渡辺大館市消防団長）では、「第八回支部消防大会」を合川中学校体育館において開催することになり、町消防団と密接な連絡のもとに、いま着々とその準備を進めている。

この大会は、各市町村の消防団幹部、消防署の幹部職員、市町村関係者が一堂に集り消防施設の整備、消防活動の体制強化など私たちの生活に質的変化をもたらしている新しい時代に即応した強力な消防体制の確立、さらには消防人の志気の高揚をはかり、この機会に地域住民の火災にたいする考え方をさらに深めてもらうこと等を目的として開かれるものである。

第八回大会は、来る七月五日午前十時、合川駅前（上大野製材所前付近）へ集合した二十台をこえるポンプ自動車　三百名におよぶ消防幹部が大会場の合川中学校へ堂々のパレードをくりひろげる。

大会では前年度の議題処理報告、各消防団、消防署から研究協議題の提案、大会宣言、大会決議などが行なわれるほか消防功労者の表彰（十一名）等も予定され午後四時ごろ散会することになっている。

この行事にあたって町婦人会（会長三浦フサェさん）では、消防関係者の日頃の労苦をねぎろうために当日の接待と余興をかって出るとともに約二百人の会員達が集って合川音頭と五輪音頭のマスゲームを紹介しようと張り切っている。

私たちの町は本当に火災が多く火災の町などと有りがたくない汚名をもらっているが、この消防大会を皆んなの力で火災の汚名返上の契機としたいものである。

町民体育祭

8月30日に決まる

ことしの町民体育祭は来る八月三十日合川中学校グランドで第十回大会として開かれることになった。

今年の町民体育祭はいつだろうか……と皆んなに待たれていたが、十八日開かれた関係者の打合せの結果正式にきまったもの。

町民体育祭は回を重ねること十回、今年は十回大会を記念して総合優勝には大優勝旗、小学校、中学校、育年会にはカップを授与することになりその旗杯は町が寄贈することになった。

役場、教育委員会、体育協会などで実行委員会をつくり細部について決定することになるが、今年は部落対抗リレーを中心としたプログラムを編成するとともにマスゲーム（公開演技）も多くとり入るといわれており、いまから盛会が期待されている。

会長に桜田氏

町商工会

町商工会では、さきほど総会を開き昭和三十八年度決算、昭和三十九年度予算および事業計画などを審議したほか、役員の改選も行なった。

新役員は次のとおり。

▽会長＝桜田治恵門
▽副会長＝西村哲郎、米倉甚逸
▽理事＝武石政治、村形市三郎、村形四郎治、杉淵忠治郎、小出民夫、斎藤慶助、後藤一俊、畠山英雄、成田織治、木村喜太郎、斎藤新三、岩沢徳松、松岡良輔、相馬悌三、金田喜代之、松岡吉治、小笠原進一、杉淵四郎治
▽監事＝藤島伊八郎、福岡正吾

合川の香りいっぱい

友の会　町長も上京して激励

合川友の会では新会員を迎えてはじめての集いを去る七日神田の天心館で開き六十人の会員たちは町からかけつけた畠山町長、中学校の三浦義一先生を囲んで楽しい一日を過した。

合川中学校を卒業して京浜地区へ就職している人達は、なれぬ異郷の地で働いている同窓生同志が、お互いに励ましあって立派な社会人になろうと、三十七年十二月初旬結成したもので会員は、いまでは百十名をこえている。

七日の集いは、今春中学校を卒業して就職した人達の新入会員を迎える会として開かれたもので、町では新会員へ記念品（こけし人形）を送り、父兄や先生方の声を集録したテープを持参し声の対面をしてもらったり集った友の会の会員たちは心ゆくまで故郷の香りを楽んだ。

この会を開くために役員の人達は何回も会合を重ね会場の準備やら会員への案内、そして町との連絡など職場で働きながらの奔走はまことにご苦労さまであったと思われる。

最近とどいたお便りでは今回の友の会は出席者も多くまた町長さんや三浦先生のご出席をいただいて盛大であったことを皆んな感謝している。

ヤアーお前元気か　久しぶりの対面に話しはつきない

町の機関（審議会委員会協議会）の再編

町の付属機関としてまたは外かく団体としての審議会、委員会、協議会などが増える傾向にある。

これらの機関は法律的に設置が強制されているものもしくは設置することが望ましいという立場からおかれているものや町の行政のうえからまたは社会的情勢から独自に任意的に設置されたものなどに分けられる。

これらの機関は、それぞれの目的　課題の解決をはかるためには貴重な存在であり意義があるが最近のように増加の傾向では機関相互の分掌事項に重復を生じたり個別の立場だけの主張におちいり自から視野を狭くし、矛盾があるように思われる。

したがって現在あるこれらの機関は可能な限り部落づくり懇談会に吸収し発展的解消をはかることを原則とする。

ただし法律の強制する

一部落づくり基本構想 ②

主体的総合的な新しい方向にのらないきらいがある。

しかもこれらの機関の中には単なる名目や形式的なものもあり結果的に経費が効率的に使用されず行政の路線にもむだとものもの、高度の政治性を有するものなど解消することが不適当なものについては存続されることはもちろんである。

部落の近代化

部落はその歴史的発展からみて個人生活の連帯によって成り立っている部落は素朴な意味ではきわめて古い歴史をもっているけれどもはげしく移り変わる社会の流れに合うような近代化の歴史は長いものではない。

部落のなかで主体的に自治体の役目を果しているのが部落会である。

部落会はこれまで祭典の実施、部落有財産の管理造成、部落道の補修を中心とした土木事業、水利権の維持など生活上の問題を調整しながら相互扶助や生活共同体としての役割と町や団体からの連絡伝達の機能と行政への協力という役割を果してきている。

しかしこれらのことは現状維持の活動が主体であり地域課題をどうして生みだし解明するかという教育活動や、豊かな生活を得るための共同的経済活動の成長や楽しい人間関係をつくる体育文化的な活動へ発展し得ないという意見もある。

さらに部落会には部落会をはじめとし各種団体や研究実践グループが明るく楽しく豊かな生活をめざして組織されてはいるもののお互いの連けいがないまま活動がなされているものといわれる。

私たちは、このような個々バラバラの状態から新しい活動分野へ目をむけるためにまず青年、婦人、成人など各層の総参加のものに地域課題を生みだす努力、解決する手順を考えださなければならない。

このことを積極的に推しすすめ行政との連がりが得られることによってこそ、民主的、近代的な部落づくりが期待されるものと信ずる。

（以下次号）

駅前の舗装工事

役場前を工事中

中央線の駅前から営林署前まで舗装することになっていたが、去る二十日、北部舗道KKによって着工された。

駅前の舗装は、去年下杉方面は高橋三蔵さん前、川井方面は上大野農協駅前出張所前までしたが、今年は駅前から李岱方面へ工事することになったもの。この工事は都市計画街路工事として事業費五百万、うち地元負担は三十万円で行なわれるものです。

中央線は合川駅と西南地区を結ぶ交通量の多い路線であり、工事中はいろいろと不便であったり危険がともなうと考えられますのでお互いに注意しあって早期に竣工することを期待しよう。

なお今年度中に駅前から上杉の疋田寅五郎さん前までも舗装工事が計画されている。

町の前企画建設課長

防災功労で表彰　柴田さん

町の前企画建設課長であった柴田勝直さん（六三）は去る四月十四日鹿児島市で開かれた全国防災協会（会長内山岩太郎＝神奈川県知事）の総会において防災事業功労者として表彰された。

同氏は昭和二十三年旧下大野村助役就任いらい、町村合併ごの合川町土木行政の主管課長となり毎年発生した災害の復旧事業にあたって常に陣頭指揮をとり特に三十八年の数回にわたって発生した水害には適時有効適切な処置をほどこし被害を最小限にとどめた功績によって表彰されたものである。

第二次自衛官募集

ただ今防衛庁では、三十九年度第二次自衛官を募集しています。

募集期間は七月一日から九月三十日まで、応募資格＝満十八歳から二十五歳まで、詳しいことは役場の総務課自衛官募集係まで問合せください。

町長さんや三浦先生からろいろとアドバイスして下さって職場で働いている私達は明日からの働く勇気がもりもり湧いている。

今回は記念品やらいろいろとご迷惑をおかけしたが次回からは自分達の力で開くよう頑張ろうと役員一同話し合っている。と伝えている。

生活のすべてに安全を

7月1日は国民安全の日

災害、と一くちに言ってもそのなかには、火災あり水害あり新潟地震を前後して頻発している地震、一日何人かの死亡者を出している交通事故　さらには毎日働いている職場の労働災害などと私たちの日常生活は、いつ思わぬ災禍にで合うとも限らないのです。

このようにいつおこるかも知れない状態のなかのくらしを明るく楽しいものにするために、生活を災害から皆なの力で守らなければなりません。

私たちは、一人ひとりが行動の安全について反省を加え施設の改善など安全の確保につとめ、交通事故、火災、産業災害、日常生活をおびやかす災害の発生防止をはかるために七月一日を〝国民安全の日〟ときめ全国的に運動をくりひろげるものです。

国民年金のお知らせ

＜その一＞

国民年金法の一部改正によって七〇歳以上の人は、公務扶助料および遺族年金を受給されていても国民年金の老令福祉年金を受給できるようになった。

該当する人は役場（町民課国民年金係）で申請の手続きをしてください。

＜その二＞

国民年金被保険者が三年以上保険料を納付して年金を受けないで死亡したときは遺族に昭和三十九年五月から支給が開始されることになった。

支給される金額は五千円から五万二千円までとなっているが、くわしいことは役場（町民課国民年金係）へ問合せください。

本町チーム惜くも二位

去る十四日、北秋田郡内町村職員体育大会が、本町の中学校グランドで開かれ本町チームは健斗むなしく二位となった。

◇優勝　田代町　三六点
◇二位　合川町、鷹巣町　二六点

町政メモ

6月3日　県地方課長来町
5日　総務財政委員会開く
8日　予算説明会（新町議参加）
9日　部落づくり幹事会、教育委員会
10日　経済土木委員会
11日　教育民生委員会
消防大会打合せ会
臨時職員採用資格試験
商工会幹部会
12日　秋田営林局長来庁
小児マヒ生ワクチン投与
14日　北秋田町村職員体育大会
15日　部落づくり幹事会
16日　部落づくり地域担当者会議
18日　町民体育祭打合せ会
19日　経済土木委員会
社協理事会
20日　道路舗装関係者会議
21日　美栄で移動町民室
22日　総務財政委員会
23日　消防幹部会
24日　八幡岱で移動町民室

植付け無事おわる

＝川井の耕地整理＝

昨秋から工事を進めていた川井部落（関係者四八名、代表者佐藤七右衛門さん）の耕地整理事業はすっかり出来上り、困難だといわれている配分もスムースに行なわれ、十八日には殆んどの植付がおわった。

（十五年償還、年利六分五厘）をうけ、あとの二割については十二月と三月の二回分割納金とするなど個人負担の軽減につとめている実施面積が少なく、小団地ではあったが、合川町内のトップを切って耕地整理事業を実施にふみ切った関係者の勇気と配分にはいろいろと困難な問題があるものだといわれながらも、これをスッキリとまとめあげた労苦は大変なものがあったと思われる。整然とした田地もすっかり植付けがおわり、やがて皆んなの努力が実ることが約束されているのである。

（写真は生れ変った水田と植付けにはげむ人々　十五日写す）

川井部落では、農業の機械化がすすんでも農道が整備されなければ機動力を充分活用できないという現実的問題をなんとかして解決したいと相談した結果、耕地整理をやることによって耕地の区画が大きく整備され、すべての作業能率があがるとともに、農道もできるという一石二鳥に着眼し県単基盤整備事業として昨年十一月、日進重機（本社＝青森）の手によって着工していたもの。

今回、工事が行なわれた地帯は町道中央線から県道阿仁川橋たもとへかけての一帯約二〇㍍（町）で、幹線四㍍支線三㍍の道路が縦横に走り、見るからにキッチリとした耕地ができあがった。

工事費は六八〇万円、一〇㌃（反）当り三万四千円でそのうち補助金が三割（三割の内訳は県が二、町が一）あとの七割は個人負担ですが、そのうちの八割は農林中央金庫から上大野農協の窓口をとおした融資林漁業金融公庫では、このほど金利の引下げ、体系の簡素化など融資制度を大幅に改善した。

今回改善された内容のうち農業委員会で取扱う農地等取得資金（一般分）の利率四分五厘が三分五厘に下がり貸付期間は据置期間をふくみ二十五年となりました。なお自作農維持資金は従前のおりです。

後藤君国体で優勝

高校重量あげ

新潟国体、重量あげ高校の部ライトヘビー級で下杉出身の後藤長三郎君（三郎長男）が見事優勝した。

去る六月六日新潟市を中心とした第十九回国体春の大会がはなばなしく行なわれたが、県選手団の一人として参加した後藤君は日頃の激しいトレーニングで鍛えた実力をいかんなく発揮し、全国から参加した精鋭たちと競い、堂々優勝をかちえたもので、本町から国体優勝者をだしたことは初めてである。

後藤君は能代工業高校機械科三年在学中で、次回の大会をめざして毎日きびしいトレーニングを続けている。

地震にそなえよう

「災害は忘れた頃にやってくる」とよくいわれますが五月七日の男鹿地震につづいて六月十六日関東大地震に四敵すすといわれる大地震が新潟市を中心に大被害をもたらしました。

地震を予知することは、現在のところ不可能とされていますが、地震の多い日本ではとうぜん地震のときの心得などを知っておく必要があると思います。

地震をなくすることはもちろん予報することを現在ではできません。地震によって起る災害は、家屋やいろいろの建造物が破壊されるために引き起され、火災などで大きくなるのです。

まず震災の予防対策としては私たちの建物から考えねばなりません。現在では耐震耐火の研究も進んでおり、その知識をいかした立派なビルも目立って多くなっています。しかし私たちの住居にまで及ぶのには大分間があるように思えます。

しかしそうかといって地震のたびにおびえていてもしょうがありません。私たちの住宅でもちょっと手を加えると相当丈夫なものになります。

例えば、筋かいを増す、弓杖を用いる、柱の結合部や基礎を強くするなど少しでも耐震的な家屋にする努力が心要だと思います。

大地震のときの心得

地震のときは最低つぎのようなことに気をつけましょう。

①大地震のときは丈夫な家屋に身をよせる
②せまい路地、へいのわき、崖や川べりに近よるな。
③手早く火を始末。
⑤人命救助には消火から。
⑥海岸では津波、山地では山津波に注意。

農地等取得資金利率

一分下がる

農家に利用されている農林漁業金融公庫の農地等取得資金（一般分）の利率が、三分五厘から二分五厘に改善されました。

町民税の課税方式かわる

住民税（私たちは町民税といっている）の課税方式つまり「本文方式」と「但し書方式」の場合、税金の負担額にかなりの差がでていたので、この不均衡を是正すべきだという論議が、国の段階をはじめ県や市町村の各機関で論議されたところであるが、実際ことしの負担はどうなるのか、税務課の係より説明してもらったので納税者の皆さんのご理解をねがいたいと思います。

＜今年の課税方式は＞

今年度分の町民税は、従来の税額控除即ち所得によって税額をだし、これから扶養控除していた、但し書き方式から、所得から扶養控除を行なう、本文方式、に改正され、その方式にもとずいて現在作業が進められている。

＜方式が変り負担が軽減＞

今年度の方式によると扶養親族一人につき、第一人目四万円、第二人目から三万円が所得から控除されます。したがってこれを税額に換算しますと第一人目について六百円ですから昨年の扶養親族控除額一人四百円であったので二百円軽減されることになります。

＜全体的な状況＞

今年の場合、給与所得者や営業所得者は前年を若干上廻り、農業所得者は軽くなるもようである。それは前者には経済の成長にともなう所得の伸びがあり後者は昨年の病虫害によって実質所得が減っているということが云えます。

＜そのほか＞

六十五歳以上の老年者、寡婦、未成年者等の方には二十万円（昨年までは十八万万円）の所得であれば税金がかかりません。

なお納税通知書は七月十日頃郵送されますので不明の点があったら一ヵ月以内に申立ねがいます。

秋植苗木は森林組合へ

森林組合では、秋植苗木の注文をとりまとめている予約金は一本当り、杉が八円、松が四円　申込期限は七月十五日まで。

詳しいことは森林組合（電話一七七）へ問合せください。

はて断横確のを切右踏切左

踏切のなかには前後がカーブであったり付近が林や建物のために見とおしのきかないところがありますので線路の上は常に列車が走っているものと心がけ、横断のときは必らず〝左、右〟を確かめてからにいたしましょう。

踏切上で車が故障で止つたとき

あわてて自動車を除けることを考えずに列車に知らせることを先に考えましょう。

踏切に職員がいる時はすぐに職員に連絡して下さい

踏切に職員がいない時（昼）すぐに列車の進行してくる方向に走り、列車の運転者からよく見えるように赤色の旗または布きれをふるなどの処置をして下さい（夜）信号えん管か赤色灯（懐中電灯にうすい赤布をおおったものでもよい）を列車の運転者からよく見えるようにふってください。

油の着いた布切れに火を点けたものを大きく振ってください。

信号えん管や赤色灯のないときは緑灯以外の灯を急激にふって下さい。

慶弔だより

自五月一日　至三十一日

出生（一七）

長岐裕好　上杉　四郎二男
東海林美香子　川井富治孫
斎藤　剛　新田目　照男長男
関　克良　上杉　藤市　孫
佐藤直人　駅前　強美長男
佐藤みゆき　川井　竹史長女
佐藤裕作　金沢　豊四郎孫
斎藤隆満　新田目　茂助孫
松岡智子　羽根山　猛　孫
簾内幸二　同　満二男
長岐美和子　李岱　チヨ孫
畠山伸久　木戸石　助蔵孫
高谷優子　芹沢　惣之助孫
松岡千恵子　鎌沢　福田トキ　孫
松橋明美　三里　与四郎二女
松橋　誠　三里　喜代治二男
三浦葉子　三木田　政吉孫

死亡（一〇）

杉淵ヨシ　増沢　長一郎母
杉淵春松　木戸石　清治父
杉淵佐五郎　同　安蔵　父
佐藤直人　駅前　強美長男
成田尚一　李岱　本人
桜井イワ　下杉　文之助母
松岡利右衛門　羽根山　本人
菊地吉治　羽根山　本人
和田百吉　上杉　本人
疋田由蔵　同　本人

新しい技術を求めて

長田健一

五反百姓に生れ、そして二歳の時父は戦死それでも祖父や母の温い理解と、今日の社会福祉の向上のおかげで高校にも入れていただき、ほんとうにありがたく思っている。ですから僕はどんなことをしてでも祖父や母に心配をかけず、安心して暮せるようにと願う。

家で農業を営むかたわら農閑期を利用して配管工事の手伝いに歩くという兼業に踏み切った。でも一昨年あたりからは農業も大事だけど配管やポンプ技術の重要性にだんだん心が引かれて行くようになり技術ということを真剣に考え、講習会等には進んで歩いた。

兼業の苦しい日程、忙しさに追われどうしで日曜日も祭日も僕には関係がない配管　ポンプの知識もだんだんと詳しくなってくるとほんとうに働く喜びというものを感ぜずにはいられなかった。僕ができる技術範囲では少しぐらい夜おそくなっても完成するまで頑張った。時間外の給与が出る訳でもないが、とにかく数多く手がければそれだけ自分が伸びるということを肝に銘じて、夜七～八時に帰宅するのが普通です。過去五年間は、一日十～十二時間労働に耐えてきたのです

配管という仕事は一ヵ所の現場へ行くと、一回だけで工事を完成することはごくまれなのです。大工さんや左官屋さんが行く前に一度パイプを予定地に引き、大工さん達が仕上げる頃にまた伺って、その場所、器具に適確に合わせなければならないからです。

こんな関係で、あっちの工事に三時間、こっちの修理に二時間というふうに現場から現場へと走り回る商売であり、田舎ですから部落から部落へとどうしても長距離運転になる、車に乗っているのは一見ラクに見え楽しくも見えるが、仕事のことを考え、あたりの車や人、道路の状態などを色々と注意を払わねばならないし精神的に非常に疲れる。

会社の仕事の方は、ある時は見積りに、ある時は集金にまた故障の探究等と、一般工事の他にずい分と多くの面で勉強しなければならない。社長の代弁者としての責任も大きい。工事契約、集金の有無は僕の地位と社長との対面上も大きく左右するのだ。色々な問題障害を打ちくだくためには理屈でいっても、技術でいっても他人より優れていれば簡単だと思った。ポンプと配管の技術取得のために大会社の実技指導を一ヵ月間受けた。だが今度は近代農業、一般教養についても向上させないと大人達と話しが合わないので〝青年の家〟の講義を受けた。短期間の講習でありましたが、いづれも僕の考え方を大きく飛躍させ、自信を持たせるに充分であった。何年も先へ進んだような錯覚をした、錯覚ではなく実際に進んでいるかも知れない、また僕の休日は素晴らしい、青年の交流会、青年会の日帰り旅行、また運転者仲間のドライブとどっちにしても僕の目を肥してくれる。

農業と配管、そして色々な計画と僕はとうとう酒やタバコを覚えることが出来なかった。僕はこれで良いと思う。今の年代でそんなことまで覚えたのでは何か祖父や母に悪い気がするのだ。僕だけの幸せではない家内みんな社会全体が幸せでなければならないと思うからです。

今年の冬期間は、また一段と新しい技術を求めて能代市へ配管の実習にきました。今までガス管とビニール管の配管を主にしていたのですが、配管工として覚えねばならないのがまだいっぱいあるのだ。鉛管も鋳鉄管も石綿セメント管もまだ一度も手がけたことがないのです。しかもこれから大いに普及されるべきパイプなのです。必ず接続、加工法、修繕法を覚えて阿仁部でこの技術を生かしたいのだ。僕自身のためにも、地域社会のためにも役立てたいと願うものです。

昨年の孔版技術秋田スクーリングに出席した時こんな言葉を耳にしました。

「菊根分け、あとは自分の土に咲け」何んどもテープをもどして再生してみた「技術分け、あとは自分の土に咲け」とも聞える、これで僕も技術に生きる重大な決心をすることができたのです。

（この文は、能代毎日新聞社の〝働らく若人の生活感想文〟へ応募し、見事能代毎日新聞社賞に輝いたものである）

◇　◇